

# 外国人児童生徒 受入れの手引

改訂版



2019年3月

文部科学省総合教育政策局  
男女共同参画共生社会学習・安全課

序章  
本書のねらいと構成

第1章  
外国人児童生徒の多様性への対応

第2章  
学校管理職の役割

第3章  
日本語指導担当教員の役割

第4章  
在籍学級担任の役割

第5章  
都道府県教育委員会の役割

第6章  
市町村教育委員会の役割

# 外国人児童生徒受入れの手引【改訂版】

## 目次

### 序章 本書のねらいと構成

|                    |   |
|--------------------|---|
| 1 本書のねらい           | 1 |
| 2 本書の主な対象者と構成      | 1 |
| 3 本書の活用法           | 2 |
| 4 外国人の受入れ拡大と共生に向けて | 3 |

### 第1章 外国人児童生徒等の多様性への対応

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1 日本語指導が必要な児童生徒とは              | 4  |
| 2 外国人児童生徒等の増加                  | 5  |
| (1) 日本の学校に在籍する外国人児童生徒          | 5  |
| (2) 日本語指導が必要な児童生徒の動向           | 5  |
| 3 外国人児童生徒等の多様な背景               | 7  |
| (1) 言語、文化の多様性                  | 7  |
| (2) 日本にきた理由・時期、将来設計の多様性        | 7  |
| (3) 家庭の環境の多様性                  | 8  |
| 4 外国人児童生徒等が直面する課題              | 8  |
| (1) 学校への適応、居場所の確保              | 8  |
| (2) 「学習するための言語能力」の習得           | 9  |
| (3) 学力の向上                      | 9  |
| (4) かけがえのない自分をつくりあげていくこと       | 9  |
| (5) 新たな課題(不就学、母語・母文化の保持、進路の問題) | 10 |
| 5 外国人児童生徒等を受け入れる学校の課題          | 10 |
| (1) 学校全体の児童生徒の指導               | 10 |
| (2) 学校の受入れ体制づくり                | 10 |
| (3) 「特別の教育課程」の編成・実施            | 11 |
| (4) 地域との関係 —外部からの支援の活用とその組織化—  | 11 |
| 6 行政上の課題                       | 11 |

### 第2章 学校管理職の役割

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 1 温かい面接を工夫する             | 13 |
| (1) 日本の学校の様子を伝える         | 13 |
| (2) 児童生徒の理解を深める          | 14 |
| (3) 保護者の立場になって編入の手続きを進める | 14 |
| (4) 教育委員会と連携する           | 14 |

|   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 2 | 担任を支え、保護者との信頼関係を築く           | 15 |
|   | (1)担任を孤立させない                 | 15 |
|   | (2)保護者との連絡方法を工夫する            | 15 |
|   | (3)長期の休みを利用して小さな保護者会を開く      | 16 |
|   | (4)評価を工夫し高等学校入試制度を説明する       | 16 |
| 3 | 日本語指導の環境を整え、習得や適応の状況を把握する    | 17 |
|   | (1)日本語指導の環境を整える              | 17 |
|   | (2)日本語指導の支援者との情報交換を大切にする     | 17 |
| 4 | 児童生徒の成長を担当と見守る               | 18 |
|   | (1)児童生徒の学級・学校適応を見守る          | 18 |
|   | (2)ちょっとした配慮について担任にアドバイスする    | 18 |
| 5 | 全教職員で取り組む体制をつくる              | 19 |
|   | (1)外国人児童生徒等教育を校内組織の中に位置付ける   | 19 |
|   | (2)研修を企画する                   | 19 |
|   | (3)共生の取組                     | 20 |
| 6 | 地域連携をコーディネートする               | 20 |
|   | (1)地域との連携・協働の体制づくりを進める       | 20 |
|   | (2)地域の住民やボランティア等と連携する        | 21 |
|   | (3)地域での楽しい活動の記録をとる(地域活動への理解) | 21 |

### 第3章 日本語指導担当教師の役割

|   |                            |    |
|---|----------------------------|----|
| 1 | 日本語指導担当教師の4つの役割            | 22 |
|   | (1)児童生徒への教育活動              | 22 |
|   | (2)校内の連携・共通理解              | 23 |
|   | (3)家庭との連携・共通理解             | 23 |
|   | (4)外部機関・地域との連携・共通理解        | 24 |
| 2 | 日本語指導の基本的な考え方              | 24 |
|   | (1)児童生徒を多角的に把握する           | 24 |
|   | (2)学校内外の生活場面すべてが学びの場       | 25 |
|   | (3)学ぶことの意味や楽しさを味わわせてスパイラルに | 25 |
|   | (4)在籍学級の学習、日々の生活に関連付けて     | 26 |
|   | (5)児童生徒の「言葉の力」とその把握方法について  | 26 |
|   | (6)日本語指導における児童生徒の評価について    | 26 |
| 3 | 日本語指導のプログラム                | 27 |
|   | (1)「サバイバル日本語」プログラム         | 28 |
|   | (2)「日本語基礎」プログラム            | 28 |
|   | (3)「技能別日本語」プログラム           | 31 |
|   | (4)「日本語と教科の統合学習」プログラム      | 31 |
|   | (5)「教科の補習」プログラム            | 32 |
| 4 | 指導計画の作成(日本語指導のコース設計)       | 34 |
|   | (1)日本語指導のコース設計とは           | 34 |
|   | (2)プログラムの配置とコース設計          | 34 |
|   | (3)発達段階によるコース設計            | 35 |

## 第4章 在籍学級担任の役割

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1 在籍学級での外国人児童生徒等の受入れ      | 39 |
| (1) 学級担任として必要な視点          | 39 |
| (2) 外国人児童生徒等の受入れの流れ       | 39 |
| 2 外国人児童生徒等の受入れ体制づくりと必要な指導 | 40 |
| (1) 学校の受入れ体制づくり           | 40 |
| (2) 外国人児童生徒等への必要な指導       | 41 |
| 3 共生の教育と学級の国際化            | 44 |
| (1) 学級の国際化に向けて            | 44 |
| (2) 学級担任に必要な姿勢            | 45 |
| (3) 共生の視点からの学級づくり         | 45 |
| 4 保護者への対応と進路指導            | 46 |
| (1) 保護者への対応               | 46 |
| (2) 進路指導                  | 46 |

## 第5章 都道府県教育委員会の役割

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1 施策の推進方針の策定                  | 48 |
| (1) 都道府県教育委員会における施策推進方針策定の必要性 | 48 |
| (2) 多文化共生を目指す施策の基本的な考え方       | 48 |
| (3) 受入れに関する運営・連絡協議会の設置        | 48 |
| (4) 研究指定校(地域)の指定              | 49 |
| 2 推進体制の整備                     | 49 |
| (1) 都道府県として考えるべき視点            | 49 |
| (2) 推進体制の実際                   | 51 |
| 3 人材確保と育成について                 | 52 |
| (1) 人材確保について                  | 52 |
| (2) 人材育成について                  | 52 |

## 第6章 市町村教育委員会の役割

|   |    |
|---|----|
| 1 教育委員会が直接行う支援・指導                           | 55 |
| (1) 「教育方針」等への外国人児童生徒等教育の明確な位置付け             | 55 |
| (2) 研究推進校(地域)の指定                            | 55 |
| (3) 小学校新入学相当年齢の外国人の子供への対応                   | 55 |
| (4) 外国人の子供が編入する場合の対応                        | 56 |
| (5) 市町村としての受入れ体制づくり                         | 59 |
| (6) 学校における受入れ体制の整備にかかわる支援(=市町村としての受入れ体制の整備) | 61 |
| (7) 進路説明会の開催                                | 64 |
| (8) 学校における多文化共生社会の実現を目指す取組の推進               | 65 |
| 2 連絡協議会等を通じて行う支援・指導                         | 65 |

|        |    |
|--------|----|
| 参考 URL | 67 |
|--------|----|

|       |    |
|-------|----|
| 作成協力者 | 68 |
|-------|----|